

睡眠章(一帖第六通)

そもそも、^{とうねん}当年の夏^{なつ}このごらは、なにとやらんことのほか、^{すいめん}睡眠に
お^{そうろう}かされてねむたく候は、い^{あん}かんと案^{そうら}じ候え^{ふしん}ば、不^ふ審^{しん}もなく
^{おうじよう}往生の死^し期^きも、ち^しが^じつ^くかとお^おぼ^え候、ま^まこ^こに^にも^もつ^つて^てあ^あじ^じき^きな^なく
^{なご}名^ご残^{ぜん}お^おしく^くこ^こそ^そ候^え、さ^さり^りな^なが^がら、^{こん}今^{にち}回^{にち}ま^まで^でも^も往^{おう}生^{じよう}の^ご期^きも^いま
や^{きた}来^らん^と油^ゆ断^{だん}な^なく^その^かま^まえ^えは^候、^それ^につ^つけ^ても^もこ^この^ざい^{しよ}所^{しよ}
に^いお^いて、^い以^ご後^ごま^まで^でも^も信^{しん}心^{じん}決^{けつ}定^{てい}す^する^るひ^ひの^{たい}退^{たい}転^{てん}な^なき^きよ^よう^うに^も候^候
え^がか^{ねん}し^がと、^{ねん}念^が願^んの^ちみ^う昼^や夜^ふ不^ふ断^{だん}に^おも^もう^うば^かり^りな^なり、^{ぶん}この^{ぶん}分^{ぶん}に^ては、
^{おうじよう}往生^{そうろう}つ^しか^{せい}まつ^り候^候と^もい^まは^し子^し細^{さい}な^なく^候べ^きに、^それ^につ^つけ^て
も^{めん}面^{めん}々^{しん}の^{じゆう}心^{しん}中^{じゆう}も^この^ほか^ゆ油^{だん}断^{だん}ど^もに^てこ^そは^候え、^いの^ちの^あ
ら^んか^ぎり^は、^われ^らは^いま^のご^とく^にて^ある^べく^候、^よら^ずに^つけ

て・みなみなの^{しんじゆう}心中こそ・不足^{ふそく}に存^{ぞん}じ候^{そうら}え、明日^{みょうにち}も・しらぬいのち
にてこそ^{そうらう}候^{もう}に、なにごとを申^{もう}すも・いのちおわり候^{そうら}わばいたざらざ
とにてあるべく^{そうらう}候^{いのち}、命^{いのち}のうちに・不審^{ふしん}も疾^とく疾^とくはれられ候^{そうら}わ
では、さだめて後悔^{こうかい}のみにて候^{そうら}わんずるぞ・御^{おん}こころえあるべく
候^{そうらう}、

あなかしこ　あなかしこ

(不読)

この障子のそなたの人々のかたへ

まいらせ候

のちの年にとり出して御覽候え

文明五年卯月二十五日これを書く

睡眠章の大意

今年の夏は、なぜかことに眠気におそわれて、このように眠いはいったいどうしたのかと考えるみますに、これはきっと浄土に往生するときに近づいたのではないかと思われます。本当にどうしよ
うもなく、またなごり惜しいことです。

しかし、私は今日までも、往生のときに今にもくるかと、油断せず
にその心構えはしていました。それにつけても、この土地で、私の
亡き後も信心を決定する人たちが、これから後も続いてくださる
ようにと、いつも心から願っているのです。私が往生することについて
は、なんの疑いもありませんが、あなたがたの心には、大いに油断が
あるように思います。命のあるかぎり、私たちは、いつ往生のときに

きてもよい心構えで生きるべきです。しかし、あなた方はその心構えが十分にできていないように思います。

明日をも知れないはかない命です。命が終わってからでは、なにをいってもむなしいことです。命のある間に疑いはれなかったならば、きっと後悔するばかりでしょう。どうぞ、十分にお考えになってください。